

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用又は他の研究機関への提供を希望されない場合は、下記の「本研究に関する当院の連絡先」にご連絡ください。ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	当院の Rapid Response System* (RRS) 起動数増加による効果
意義・目的	<p>RRS とは予期せぬ院内心停止を未然に防ぐことを目的とした急変対応システムのことです。当院では2014年からRRSを導入しています。予期せぬ院内心停止を未然に防ぐためには、入院1000人あたり25件/月以上の起動が必要と言われていています。当院のRRS起動は10-11件/月とまだ少ないため、起動の促進のため2022年よりRRS専従クリティカルケア認定看護師にも相談が選択できる体制としました。その結果、入院1000人あたりの起動数が2021年度12.6件から2022年度25.8件、2023年度31.3件と増加しました。</p> <p>過去の報告によると、成熟したRRSを有し導入後の患者転帰の改善が報告されている病院の起動数は、入院1000人あたり25.8~56.4件とされています。RRSの目的の一つは、予期せぬ院内心停止患者さんを減らすことです。そこで起動数増加により予期せぬ院内心停止の患者さんが減少しているのではないかと仮説を立て、起動窓口多様化前後を比較しその効果を把握します。</p> <p style="text-align: center;">*患者さんの状態が重症となる前に早期に発見し、治療につなげるシステム</p>
研究期間	当院病院長許可日（利用開始日）2025年2月12日～2025年3月31日
対象患者	2021年4月1日～2022年3月31日、2023年4月1日～2024年3月31日に当院入院中でRRS起動となった患者さん（そのうち、ICU、HCU、外来、化学療法、検査、透析、手術中の患者さんは除く）
研究内容	電子カルテ及び後利用システムを利用し、2021年4月1日～2022年3月31日（前期）、2023年4月1日～2024年3月31日（後期）の入院患者さん（ICU、HCU、外来、化学療法、検査、透析、手術患者は除外）を対象に後方視的に検討を行い、前後期で予期せぬ院内心停止、予期せぬICU入室、退院時転帰、入院24時間以内、ICU退室後72時間以内、夜間の起動数、起動時のNEWS合計点について比較を行います（検定にはEZRを使用し、有意確立は $p < 0.05$ と定めます）。なお公表する際には、個人を特定できる情報は削除します。
利用する試料・情報の項目	性別、年齢、予期せぬ院内心停止、予期せぬICU入室、退院時転帰、入院24時間以内、ICU退室後72時間以内、夜間の起動数、起動時のNEWS合計点。
試料・情報の他機関への提供有無	<input type="checkbox"/> あり（ <input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 海外） 提供方法： <input checked="" type="checkbox"/> なし

研究組織	<p>研究代表機関：機関名および研究責任者名 島根県立中央病院 西尾万紀</p> <p>共同研究機関：機関名および研究責任者名 該当なし</p> <p>試料・情報提供を行う機関：機関名および施設長名 該当なし</p>
本研究に関する当院の連絡先	<p>研究責任者： 島根県立中央病院 看護局 西尾万紀 電話：0853-22-5111（代表）</p> <p>事務担当： 島根県立中央病院 臨床研究・治験管理室 電話：0853-30-6590（直通）</p>
個人情報の保護	<p>当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。 URL：https://www.spch.izumo.shimane.jp/privacy</p>
結果の公表	<p>投稿論文として公表予定です。</p>
備考	